

日本全国 能楽キャラバン!

梅若研能会 特別公演



番組

神歌

梅若万三郎

狂言
萩大名

善竹 十郎

能
石橋

大獅子

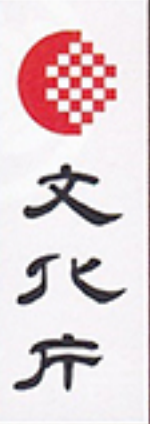
梅若万佐晴

梅若 紀長

梅若 久紀

梅若 泰志

文化庁 統括団体による
アートキャラバン事業
(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)



令和4年11月3日(祝・木) 13時開演 (12時15分開場)

於・国立能楽堂

入場料 (全席指定)

正面 6,000 円 脇正面 5,000 円
中正面

お問い合わせ・お申し込み

e+ (イープラス)

<https://eplus.jp/ath/word/69495>



カンフェティ TEL 0120(240)540 (平日10:00-18:00)

<http://www.confetti-web.com/umeken>

公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03(3466)3041

《メールアドレス》 staff@umewakakenohkai.com

《ホームページ》 <http://www.umewakakenohkai.com>



梅若研能会特別公演

令和四年十二月三日（祝・木）十三時開演 於・国立能楽堂

神歌

千 翁
梅若万三郎
長谷川晴彦

地謡
梅若 志長
八田 達弥
青木 一郎
加藤 眞悟
古室 知也

解説

梅若万三郎家について

村上 湛

狂言

十三時三十五分頃

萩大名

大 名 善竹 十郎
太郎冠者 善竹大二郎
亭 主 野島 伸仁

石橋

十四時三十分頃

大獅子

親獅子 梅若万佐晴
親獅子 梅若 紀長
子獅子 梅若 久紀
童子 梅若 泰志
子獅子 梅若 泰志
寂照法師 野口 琢弘
仙人 善竹大二郎

笛 栗林 祐輔
小鼓 古賀 裕己
大鼓 大倉正之助
太鼓 徳田 宗久

後見 中村 裕

梅若 紀佳 遠田 修
青木 健一 青木 一郎
古室 知也 伊藤 嘉章
地謡 長谷川晴彦 八田 達弥

台持

中村 政裕 梅若 志長
萩原 郁也 梅若千音世

終了予定 十五時四十五分頃

梅若研能会特別公演について

維新後の明治・大正・昭和初期にわたって活躍し、名人と呼ばれた「初世・梅若万三郎」の流れを汲む「梅若万三郎家」。本公演では、現当主・三世梅若万三郎による「神歌」と二世万三郎次男・梅若万佐晴による「石橋」を、梅若家親子三代、梅若万三郎門弟一同がつとなり勤めます。

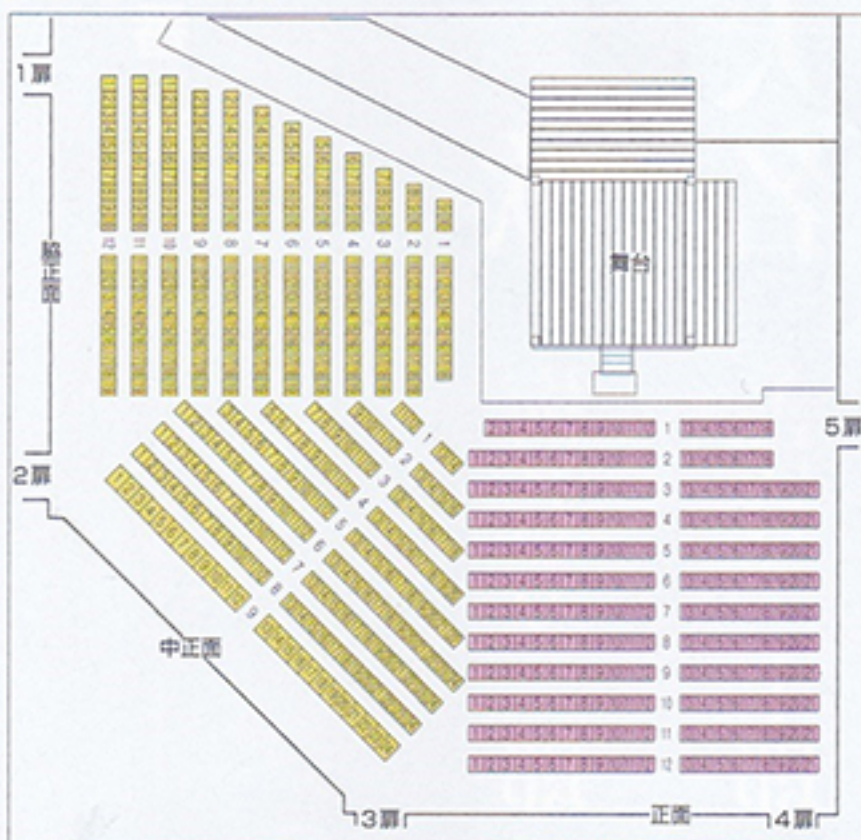
曲目解説

【神歌】「能にして能にあらず」といわれ、能の神秘性、呪術性を体現する演目「翁」が、素謡で上演されるときに「神歌」という呼称となります。本公演では、三世・梅若万三郎が翁を勤め、天下太平・国土安全の祈念を込めます。

【狂言【萩大名】】庭の見物をしたい田舎の大名が、心得のない歌を詠まなくてはならぬということで、太郎冠者に対応策を考えさせます。太郎冠者の苦心で対策はしたものの、実際に亭主の前に出ると覚えたはずの歌が出てこない大名に……

【能【石橋】】中国に渡った寂照法師は、名に高い清涼山に赴き、石橋（しゃつきょう）を目前とします。彼岸の浄土に渡るうとする寂照に対し、居あわせた童子は安易に渡ろうとする姿勢を諫めます。石橋の謂われを語り消えていった童子の後に、仙人が姿を見せ、更にその後文殊菩薩の使いである獅子が現れ、奇瑞の舞を見せます。

表紙写真【石橋大獅子】梅若万佐晴（撮影・前島古裕）



国立能楽堂

渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1

中央・総武線 千駄ヶ谷駅下車徒歩5分
大江戸線 国立競技場駅 A4 出口徒歩5分
副都心線 北参道駅 出口1 徒歩7分

●入場料（全席指定）

正面 6,000 円
脇正面・中正面 5,000 円



梅若万佐晴



三世 梅若万三郎

主催 公益社団法人 能楽協会 / 公益財団法人 梅若研能会